

告示	番号	79	慢性心疾患
	疾病名	肺動脈弁上狭窄症	

肺動脈弁上狭窄症

はいどうみやくべんじょうきょうさくしょう

概念・定義

肺動脈の弁上もしくは末梢にかけて狭窄。左右心室間の交通を伴わない。中心部肺動脈の狭窄であれば手術で拡大できるが、末梢側では手術施行困難である。

症状

右室収縮期圧により 1)軽症(50mmHg 以下) 2)中等症(50mmHg-体血圧程度) 3)重症(体血圧以上)に分類される。軽症例で`は生涯を通して`無症状で`あり、中等症のもので`も、年少の頃は無症状で`あり、検診など`で`偶然発見されることか`多い。年長になるにつれ労作時の呼吸困難や易疲労性が`出現してくる。重症乳児例で`は多呼吸・哺乳困難・体重増加不良・頻脈・肝腫大等の心不全症状ある。年長児では簡単な労作での呼吸困難、易疲労性をきたし激しい運動では失神、突然死もあり得る

治療

治療の適応は右室圧で判断するが、肺動脈弁狭窄と同様である。軽症例では治療は不要で、生活運動の制限もない。中等症以上で学童期にある例では運動の部活動を禁止とする。

中心部肺動脈の狭窄であれば手術で拡大できるが、末梢側では手術施行困難である。そのためカテーテルによる治療の試みはあるが、単独例では効果が少ない場合が多い。ただ術後の末梢性肺動脈狭窄には有効例があり試みる価値がある

抜粋元： http://www.shouman.jp/details/4_51_64.html